

**IVRC 2003**

**開催報告書**

**平成 16 年 3 月**

**IVRC 実行委員会**

## はじめに

IVRC 実行委員長  
東京大学教授 舘 暲

本年度は、昨年度のほぼ倍の企画提案があったことを先ずお伝えいたします。企画から岐阜本大会へは幾つもの関門があり、コンテスト参加者には挑戦の連続が強いられる。アイデアや知識を短期間に集中して作品の完成度を高めなければいけないので、学生諸君にとって普段の学業とは別の貴重な体験となる。審査員は VR の研究者や映像芸術関係の専門家であり、また一般参加者の評価も受けることになる。今年は、有名人も審査員に加わっていただいた。さらにテレビや新聞でも報道されるようになったことに対して、岐阜県、各務原市はじめ関係各位のご尽力に実行委員会を代表して感謝申し上げたい。

IVRC のこれまでの経緯については、付録 CD-ROM のパンフレットに記載された巻頭言を御覧いただきたい。

今回、第 11 回を迎えて新しい企画が生れた。フランス Laval Virtual との連携である。岐阜本大会にはフランス側の実行当事者の参加を得て、Laval Virtual Award が 2 作品に授与された。LavalVirtual2004 と IVRC2004 では、日仏の受賞チームによる交換展示が実施される。このコンテストが国際的なイベントになる第一ステップと期待している。受賞者にとっては、自らの創意工夫が米国の SIGGRAPH や欧州の Laval Virtual という世界の VR の第一線の技術者が集う檜舞台で真価を問われるのである。このことは IVRC 大会参加者にとって非常に大きなインセンティブになり、また教育的にも大きな意義をもつことになると思う。益々参加者が増えることを楽しみにしている。

最後に、このイベントの運営は同年代の多くの学生ボランティアで支えられていることをお知らせして、「学生の、学生による、学生のためのコンテスト」の精神で今後とも運営されて行くことを願っている。

- 目 次 -

1. 運営組織.....	1
2. コンテスト概要.....	3
日時.....	3
場所.....	3
応募資格.....	3
賞.....	3
3. 審査・大会の概要.....	4
書類審査.....	4
プレゼンテーション審査.....	4
東京予選大会.....	5
岐阜本大会.....	6
4. 講評（IVRC 副実行委員長・筑波大学教授 岩田洋夫）.....	10
5. IVRC の国際化.....	10
6. 企業協賛.....	11
7. 開催データ.....	11
入場者数.....	11
参加企画数.....	11
8. 参加作品紹介.....	11

付録 東京予選大会出場チーム紹介

# IVRC 2003 開催報告

(第11回学生対抗手作りバーチャルリアリティコンテスト)

## 1. 運営組織

主催： IVRC 実行委員会

共催： 岐阜県

各務原市

日本 VR 学会

財団法人イメージ情報科学研究所

後援：文部科学省

経済産業省

運営組織：

IVRC 実行委員会は日本 VR 学会・岐阜県・各務原市と事務局である財団法人イメージ情報科学研究所からなる。コンテストの企画・審査方式の策定・募集・広報・連絡・会場設営といったコンテストの運営は日本バーチャルリアリティ学会学生コンテスト企画委員会を中心に、コンテスト OB、ボランティアスタッフなどの協力によって行われた。

## IVRC2003 実行委員会 委員名簿

(敬称略・順不同)

顧問	岐阜県知事	梶原 拓
顧問	各務原市長	森 真
委員長	東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻 教授	舘 暲
監事	岐阜県新産業労働局 情報産業室 情報産業室長	富田 成輝
監事	各務原市役所 産業部商工振興課 商工振興課長	永井 誠
副委員長	筑波大学 機能工学系 教授	岩田 洋夫
副委員長	株式会社セガ 新規事業部マネージャー	武田 博直
委員	岐阜県新産業労働局長	豊田良則
	各務原市役所 産業部 産業部長	岡部 秀夫
	芝浦工業大学 工学部情報工学科 教授	大倉 典子
	東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻 講師	川上 直樹

岐阜大学 工学部応用情報学科 助教授	木島 竜吾
大阪大学 大学院情報科学研究科 マルチメディア工学専攻 教授	岸野 文郎
武蔵野美術大学 映像学科 講師	串山 久美子
東京工業大学 精密工学研究所 教授	佐藤 誠
大阪大学 大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻 助教授	塚本 昌彦
NHK 解説委員・デジスタナビゲーター	中谷 日出
東京大学先端科学技術研究センター 教授	廣瀬 通孝
東京大学 先端科学技術研究センター 助教授	広田 光一
筑波大学 機能工学系 講師	星野 准一
NTTコミュニケーション科学基礎研究所	前田 太郎
財団法人 イメージ情報科学研究所常務理事	厚東 健彦
財団法人 イメージ情報科学研究所部長	安原 宏
財団法人 イメージ情報科学研究所研究員技術調査役	田村 至
NTTコミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部 視聴覚情報研究グループ	安藤 英由樹
東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻 助手	稲見 昌彦
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 助手	井村 誠孝
NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部 視聴覚情報研究グループ	杉本 麻樹
東京大学 大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻	多田隈 理一郎
大阪工業大学 情報科学部 講師	橋本 渉
東京工業大学 精密工学研究所 助手	長谷川 晶一
東京工業大学 精密工学研究所	白井 暁彦
NTTサイバースペース研究所メディア通信プロジェクト サイバー通信システムグループ	細田 真道
東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻	渡邊 淳司
バンダイネットワークス株式会社	榭井 大輔
NTTドコモ マルチメディア研究所 NTT DoCoMo R&D センタ主任研究員	平岩 明
NTTドコモ マルチメディア研究所 NTT DoCoMo R&D センタ主任研究員	福本 雅朗

## 2. コンテスト概要

### 日時

企画締め切り	2003年5月23日(金)
書類審査結果発表	2003年5月30日(金)
プレゼンテーション審査	2003年6月14日(土)
東京予選大会	2003年8月20日(水)
岐阜本大会	2003年9月19日(金)、20日(土)

### 場所

プレゼンテーション審査	東京都 東京大学工学部1号館
東京予選大会	東京都 日本科学未来館
岐阜本大会	岐阜県 各務原市テクノプラザ

### 応募資格

「バーチャルリアリティ / インタラクティブ作品」を実現できる能力・熱意を持つ学生を主体としたチームまたは、個人であること。

### 賞

#### 総合優勝 Grand Prix (グランプリ)

副賞 50万円(SIGGRAPH 2004 研修旅費として)

+ SIGGRAPH 出展投稿サポート・搬送補助

「フレグラ」 和田おろし 奈良先端科学技術大学院大学

#### 岐阜 VR 大賞

副賞 10万円

「The Mind Wave」 Mother 大阪工業大学

#### 各務原市長賞

副賞 5万円

「Dis-Tansu」 Tasmania 多摩大学

#### 審査員特別賞/技術賞

副賞 1万円

「六十六寸堂」 色即是空 電気通信大学

#### 審査員特別賞/明和電機社長賞

副賞 1万円

「Sky-Image」 Weather Operation 東京工芸大学/東京大学

#### LavalVirtual Award

副賞 メダル+ LavalVirtual2004 (フランス) 出展サポート

「フレグラ」 和田おろし 奈良先端科学技術大学院大学

「Dis-Tansu」 Tasmania 多摩大学

### 3. 審査・大会の概要

IVRC2003 は IVRC2002 の成功をふまえて、以下のように書類審査、プレゼンテーション審査、東京予選大会、岐阜本大会の合計 4 回の審査を行った。今年度は第 8 回日本バーチャルリアリティ学会大会が岐阜で行われたので、本大会を学会大会と同時開催とした。そのため、昨年よりも約 1 ヶ月早めのスケジュールとなった。

#### 書類審査

本年は去年の 17 件を上回る 32 の企画が公式 Web site に集まった。力作ぞろいの 32 の企画から、書類選考だけで 20 の企画に絞るという難題に答えるため、審査期間を延長し、実行委員を中心とした審査員による十分な審査を行った。

#### プレゼンテーション審査

6 月 14 日、書類専攻を通過した 20 作品について企画者によるプレゼンテーション発表と審査員による質疑・審査を行った。会場は東京大学工学部 1 号館講義室にて、各チーム 3 分(時間厳守)のプレゼンテーションを行い、後に 3 分程度の質疑応答時間を設けた。IVRC では、プレゼンテーション審査通過するまでは作品の情報を守秘事項としている。そのため、プレゼンテーション審査は事前登録制としている。

通過順位順で制作費が支給されるというルールであり、デバイスを身にまとったパフォーマンスやビデオ、スピーチなど学生の趣向を凝らした果敢なプレゼンテーションが行われた。



制限時間厳守のプレゼンテーション審査



緊張感のある審査員席

質疑応答は審査員のみが可能であり、作品のコンセプト、新規性、技術的先進性、芸術性の高い作品については過去の作品に対する調査、実現可能性について質問がなされた。ちなみにこの質疑応答も時間厳守であり、20 作品、5 時間に及ぶ長時間の審査であったが、活発で緊張感のある濃厚な時間が流れた。

### 東京予選大会

プレゼンテーション大会を乗り越えた 10 企画には通過順位に従い、5～10 万円の制作費補助が支給された。2 ヶ月後の 8 月 20 日、東京お台場の日本科学未来館で開催された予選大会において「実機体験可能な状態」で 10 チームが発表を行った。審査は審査員による審査と、来場者によるバーチャルマネー「Vash」による審査を併用した。体験者はテーマパークのアトラクションと同様、事前に支給された Vash 紙幣を支払う。最後に特別に追加票を投じたい作品に追加投票することができる。Vash 審査の上位 4 作品と審査員推薦の 1 作品が本選に進出する。

作品を安定稼働させることの重要性を際立たせるために、今年も Vash 審査を採用したが、夏休みで未来館という場所柄、多数の一般来場者で会場が混雑したこともあり、単に回転率の良い作品が高得点を挙げるという弊害も見られた。幸い審査員方式との併用であったため大きな問題にはならなかったが、来年の大会では客層にあわせた審査方式に改めたい。

IVRC2003 公式ページ <http://ivrc.net/2003/> からリンクされている GAME Watch の記事も参考になる。





東京予選大会 会場準備の様子



ジョイポリスでの表彰式

## 岐阜本大会

厳しい審査を勝ち残った5企画が、ファイナルステージである岐阜本大会にて発表を行った。参加チームは本選大会に先立って、JR 岐阜駅前ぱるるプラザで同時開催の第8回VR学会大会VRコンテストセッションで口頭発表をおこなった。この予稿は大会論文集にも掲載されている。発表会場は立ち見が出る大入りで、活発な質疑応答がなされた。学生も学会でのプレゼンテーションを行うことができ、VR研究に対する刺激になった。口頭発表が終わると学生たちはすぐに本選会場にもどり、翌日からの展示の準備に追われた。

本選の会場は岐阜県各務原市のテクノプラザ。VRをコンセプトに建設されたベンチャー支援施設であり『VRの甲子園』としてはこれ以上ない環境である。IVRCでは、本選の開催にあわせて地域への貢献として高校生のための講演会を開いた。講師は、昨年度優勝チームの梶井大輔氏(バンダイネットワークス(株)モバイル事業部)で、『バーチャルリアリティを「デザイン」する』というタイトルの講演が行われた。また、地域の人々と企業向けに、アートユニット明和電機でおなじみの土佐信道社長に特別講演をいただいた。

本選におけるIVRCグランプリ(総合優勝)・岐阜VR大賞(準優勝)の審査は、世界的に活躍する研究者・アーティストを中心とする審査委員会により行われた。

グランプリを勝ち取ったチームには、昨年同様、副賞として米国 San Diegoにて開催される「SIGGRAPH 2004」への研修旅行及びSIGGRAPH 出展投稿サポート権が授与されることになる。いわば「VRの甲子園」である岐阜各務原市からいきなり「CGとインタラクティブ技術のメジャーリーグ」であるSIGGRAPHにチャレンジすることになるわけである。



講演される明和電機 / 土佐信道社長

また、今大会では、フランスLaval市で毎年開催されているLaval Virtualの中のLaval Trophies コンテストへの招待とシード参加権が、Laval VirtualのJean Francois Fontaine副所長から授与された。

この副賞にふさわしい作品を選出すべく、審査は10名の審査委員全員が各作品を体験し、作家と質疑を交わした後に(1)独創性・新規性(作品のオリジナリティー、過去の類似作品との違い) (2)技術性(技術的に優れているか) (3)作品性(作品としての個性・まとまり・完成度) (4)将来性(Technical Edge)の4点を軸に採点を行い、その結果に基づいた審査会議により最終的な結果が選考された。

最後にコンテスト運営にご支援いただいた岐阜県庁及び各務原市庁の方々、ご多忙中の所審査にご協力いただいた以下、10名の本選審査委員の方々にこの場をお借りして御礼申し上げたい。

#### 岐阜本大会審査委員会

- ・ 審査委員長  
岩田洋夫(筑波大学 教授)
- ・ 副委員長  
武田博直(株セガ 未来研究開発部マネージャー)

・審査委員(50音順)

大倉典子(芝浦工業大学 教授)

串山久美子(武蔵野美術大学 講師)

佐藤誠(東京工業大学 教授)

丹羽和男(各務原市 産業高度化支援センター 所長)

塚本昌彦(大阪大学 助教授)

富田成輝(岐阜県新産業労働局情報産業室 室長)

福本雅朗 ( NTT DoCoMo R&D センタ主任研究員 )

星野准一(筑波大学 講師)



館実行委員長の開会式でのご挨拶と優勝旗授与



会場入口風景



IVRC2003 の配布資料表紙（ブルー）



同時に開催された「テクノメッセ 2003」のポスター（オレンジ）

#### 4. 講評（IVRC 副実行委員長・筑波大学教授 岩田洋夫）

今年の IVRC、はプレゼン審査と東京予選を始めてから 2 回目にあたり、出場者のレベルも底上げされた感がある。最終審査もその分だけ接戦になり、特に今年は本命なき乱戦になった。本大会の審査委員会でも議論が白熱し、すべての作品に賛否両論が入り乱れた。その中で最終的に勝者になった「フレグラ」は、一言で言えば「たがが匂い、されど匂い」である。匂いを出すという提案自体は掃いて捨てるほどあるが、匂いの嗅ぎ分けをインタラクティブに実現できたこの作品は存在意義がある。また二位になった「Mind Wave」は、癒し系 VR としては最初の入賞作品ではないかと思う。自分の呼吸に環境が応答するという提案は、なぜか今年のプレゼン審査のトレンドであったが、それをリラクゼーションのコンテンツにうまく取り入れた本作品が高い評価を得た。3 位以降の 3 作品もそれぞれ特徴があり、賞を決めるのは楽しい作業であった。

#### 5. IVRC の国際化

IVRC Inter-collegiate virtual reality contest という名前が生まれた当初から、国際化は IVRC の大きな目標であった。これまでも IVRC 作品は SIGGRAPH の Emerging technologies に参加するなど国際的に活躍してきたが、このたびフランスラバルバーチャルのフォンテーヌ副所長、国立情報学研究所のアンドレス助教授のご尽力により、IVRC とラバルバーチャルの間で相互参加が始まった。Laval Virtual はヨーロッパ最大の VR の学会・祭典であり、毎年 5 月に開催される。

今年の IVRC の作品から「Dis-Tansu」と「フレグラ」の 2 作品がラバルバーチャルにシード参加することが決まった。また、来年はラバルバーチャルで優秀な成績を修めた作品を IVRC へ招待する予定である。



審査委員会でのフォンテーヌ副所長（右）とアンドレス助教授（左）

## 6. 企業協賛

コンテスト運営資金の一部は下記の協賛企業からの協賛金に拠る。この場を借りて、多大なるご支援に感謝の意を表します。

(五十音順)

- ・ アクセンチュア株式会社
- ・ NTT Communications 株式会社
- ・ 株式会社大垣共立銀行
- ・ 川崎重工業株式会社
- ・ 岐阜信用金庫
- ・ 株式会社十六銀行
- ・ 株式会社テックエキスパーツ
- ・ 株式会社ビュープラス
- ・ VR テクノジャパン振興会
- ・ 三菱電機株式会社、

## 7. 開催データ

### 入場者数

予選大会：	500 名
本選大会：	400 名

### 参加企画数

応募総数：	32 企画
書類審査通過企画数	20 企画
プレゼンテーション審査通過企画数：	10 企画
予選通過企画：	5 企画

## 8. 参加作品紹介

東京予選大会に出場した 10 チームについて付録で概要を紹介する。

また、東京予選大会と岐阜本大会の場面をビデオ撮影し、CD - R に記録した。